

⑤1 五ヶ瀬町役場新庁舎建設事業

受賞機関 宮崎県五ヶ瀬町

キーワード 地域資源の活用、自然エネルギーの活用、
気軽に立ち寄れる公共空間の創出

全建賞審査委員会の評価ポイント

町産杉材を積極的に活用した新庁舎建設。町有林伐採時期に合わせた外装木製ルーバーの更新、エコポイドによる自然通風や自然採光の取り込みなどにより、地域システムの循環、低炭素社会の実現を具現化した点が評価された。

1. はじめに

五ヶ瀬町は、九州のほぼ中央、宮崎県北西部にあり、宮崎の西の玄関口に位置し、町の総面積は171.73km²、地形は急峻で面積の88%を森林が占めている典型的な山間地域である。今回の庁舎建設に当たっては、行政機能の集約化、バリアフリー化、耐震化、災害対応の拠点化等、庁舎としての必要な機能を再整備するとともに、まちにつながり人が集まる場、気軽に立ち寄れる公共空間の創出を目指した。地域資源を有効活用し、五ヶ瀬町が古来より育んできた「豊かな食文化・森林文化・循環型社会」を世界に向けて発信できる建築とした。

2. 事業の概要

森林社会・循環型社会のアイデアを発信するため町産杉材を積極的に活用した。公共空間の木材活用が林業の担い手への興味、林業の発展、豊かな森林維持保全、木材活用の更なる発展につながることに期待している。外装の町産材ルーバーについては、町有林伐採時期に合わせた更新を想定しており、庁舎が「地域システム」の循環に組み込まれることを意図している。角度については日射熱取得と日射遮蔽の最適化プロセス（冬季日射量最大化、夏期の日射量最小化）により決定した。

事務室にはタスクアンビエント照明、エコポイドによる自然通風と自然採光を取り入れ、快適な執務空間を実現した。



持続的に供給可能な町産材を活用した庁舎外観
夜間は“まちなかり”となる

3. 事業の成果

水源、新鮮な空気、木々などの地域資源を活用した生活の営みは、町のアイデンティティそのものであり、これらの資源を有効に活かし、木材は町有林から提供され、適材適所に活用した。3階に排気口を設け『風の道』を形成し、効率的な換気システムを構築した。エコポイドにより自然通風、自然採光を実現し、環境負荷の低減、低炭素社会の実現を具現化した。



木製ルーバーは町有林の伐期に合わせて更新
『地域システム』の循環を取り入れる

また、様々な災害も想定し、災害時にも機能を維持できる庁舎とし、隣接する公共施設との連携を図り支援等をスムーズに受け入れ可能な施設計画とし、来庁者駐車場は災害時には避難駐車場として利用可能な配置とした。幹線道路沿いに町民利用施設を連続させることにより、町民交流を促す『まちなみ形成ゾーン』と位置付け、整備を行った。

4. おわりに

新庁舎建設の基本構想策定時点において、幹線道路である町道赤谷中央線の道路改良も実施した。

この町道沿いは多くの公共施設があるものの、歩道幅員は狭く、福祉施設や病院そして役場への往来に支障をきたす状況であり、通学路として利用する児童・生徒の安全も危惧されていた。今回の改良により、町民が頻繁に利用する施設が整備された歩道で連続し、併せて車道は2車線道路として整備を行った。町道赤谷中央線沿いの施設は車椅子での移動も容易となり、児童・生徒も安心して登下校が可能となり、庁舎建設のテーマの一つであった、『まちなみ形成ゾーン』の一助となった。



歩道が整備された庁舎前の町道
児童・生徒が安心して登下校できる